

ポスター

ポスター9

看護（看護管理・看護支援）

2018年11月24日(土) 09:00 ～ 10:00 J会場(ポスター) (2F 多目的ホール)

[3-J-1-1] ストレッサーの高低による女性看護師のストレス反応とサポートの違いについての検討

○古屋 肇子^{1,2}, 西村 治彦², 石垣 恭子² (1.大阪青山大学, 2.兵庫県立大学大学院)

目的：女性看護職は、超過勤務や夜勤の負担など職場環境の理由から、ワークライフバランスが難しいとされる。本研究は、ストレッサーの高低による女性看護師のストレス反応、サポートの違いについて分析し、女性看護師の職場環境の改善に役立てるために、ストレスに関連する要因を明らかにすることを目的とする。方法：400床以上の総合病院病棟に勤務する女性看護師927名から得られた職業性ストレス簡易調査（BJSQ）の結果をもとに、ストレスの原因と考えられる因子（ストレッサー）項目の総合得点での高低群に分け、ストレスによって起こる心身の反応（ストレス反応）因子項目の総合得点と他者からのサポート因子項目の総合得点について、平均の差の検定を行った。更に、各因子項目への検定を通して詳しく分析した。研究内容については、所属機関の倫理審査委員会より承認を得ている。結果：ストレス反応因子とサポート因子の総合得点について、ストレッサー因子の高値群と低値群との間に有意差がみられた（ $P<.0001$, $\eta^2=.016$ ）。ストレッサー因子低値群は、高値群よりストレス反応が低く、サポートが多かった。更に、ストレス反応因子とサポート因子の各因子ごとに、ストレッサー因子の高低群間で分析した結果、ストレス反応因子の活気($P=.004$)、イライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴（ $P<.0001$ ）すべての因子について、有意差がみられた。また、サポート因子については、上司サポートについてのみ有意差がみられ（ $P<.0001$ ）、同僚サポートと家族・友人サポートについては、有意差はみられなかった（ $P=.204$, $.443$ ）。考察：結果からは、職場でのストレッサーが高くサポートが低いと、ストレス状態が昂じ、ストレス反応が高くなるというシンプルな関係性の成立が確認できた。今後、更に個々のストレッサー項目レベルで同様の分析を行い、女性看護師におけるストレッサー特異性についても詳しい評価を進めたい。

ストレスの高低による女性看護師のストレス反応とサポートの違いについての検討

古屋 肇子^{*1, 2}、石垣 恭子^{*2}、西村 治彦^{*2}

*1 大阪青山大学健康科学部看護学科、*2 兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科

Study of the Differences on Stress Responses and Support Factors of Female Nurses between High and Low Stressor Levels

Hatsuko FURUYA^{*1, 2}, Kyoko ISHIGAKI^{*2}, Haruhiko NISHIMURA^{*2}

*1 Faculty of Health Science, School of Nursing, Osaka Aoyama University,

*2 Graduate School of Applied Informatics, University of Hyogo

Abstract : This study aimed to analyze the differences on stress responses and support factors between high and low stressor groups of female nurses, and to clarify stress related factors. We administered the Brief Job Stress Questionnaire (BJSQ) on 927 female nurses and tested for significant differences in the stress responses and support among the high and low stress groups. Findings confirmed that, among female nurses, higher the stress condition, higher was the stress response when workplace stress was high and support was low. In future it is necessary to further analyze these factors based on individual stressor items.

Keywords: female nurses, stressor, stress, support, BJSQ

1. はじめに

女性看護職は、超過勤務や夜勤の負担など職場環境の理由から、ワークライフバランスが難しいとされる。看護師の心の健康を守ることは、離職からの人手不足を防止し、ひいては看護の対象者である患者の安全を守ることにつながることから、ストレス管理は毎年大量の退職者を出している看護職の喫緊の課題である。職場環境改善に向け、就労女性看護師が置かれている現状を把握するために行われているのが、ストレスチェックである¹⁾。

本研究は、ストレスチェックに使用されている職業性ストレス簡易調査票(BJSQ)²⁾を用い、ストレスの高低による女性看護師のストレス反応、サポートの違いについて分析し、女性看護師の職場環境の改善に役立てるために、ストレスに関連する要因を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

全国の400床以上の総合病院で承諾を得られた全13病院(47病棟)の病棟に勤務する看護師990名に質問紙を実施した。研究は就労女性のメンタルヘルスを検討する目的のため、女性のみを分析対象とした。

質問紙内容は、職業性ストレス簡易調査票(BJSQ)(表1)で、ストレスの原因と考えられる因子(ストレス)は「ちがう」「ややちがう」「まあそうだ」「そうだ」、ストレスによっておこる心身の反応(ストレス反応)は「ほとんどなかった」「ときどきあった」「しばしばあった」「ほとんどいつもあった」、サポート因子は「全くない」「多少」「かなり」「非常に」の1-4点の4段階評価で行った。本研究においては、BJSQのストレス17項目の総合得点により928名を高低群に分け、ストレス反応とサポートの各因子項目の違いに着目し、分析を行った。

分析方法は、SPSS Ver.22を用いてMann-whitney 検定を行った。研究内容については、所属機関の倫理審査委員会より承認を得ている。

3. 結果

有効回答率は93.7%で、分析対象者は928名(平均年齢33.6歳)であった。ストレス項目の総合得点Xの分布は図1のようになり、37点以下を低値群(N=435、 $\bar{X}=33.49$)、38点以上を高値群(N=481、 $\bar{X}=41.88$)とした。

ストレス反応とサポート因子の総合得点について、ストレスの低値群と高値群との間に有意差がみられた($P<.0001$)(図2、3)。ストレス低値群は、高値群よりストレス反応が低く、サポート因子が高かった。更に、ストレス反応とサポート因子の各因子ごとに、ストレスの高低群間で分析した結果、ストレス反応の活気、イライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴のすべての尺度項目について、有意差がみられた($P<.0001$)(図3)。また、サポート因子については、上司サポート、同僚サポートは高い有意差がみられ($P<.0001$)、家族・友人サポートについても上司や同僚の職場サポート程高くはないが、有意差が見られた($P=.002$)(図4)。

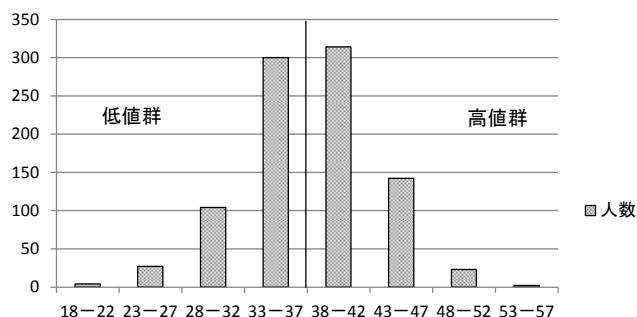


図1 ストレス総得点度数分布表

表1. BJSQにおける分析対象尺度の構成

ストレスの原因と考えられる因子 (ストレッサー)	ストレスによっておこる心身の反応 (ストレス反応)
A. 心理的な仕事の負担(量) (3)	L. 活気の低下 (3)
B. 心理的な仕事の負担(質) (3)	M. イライラ感 (3)
C. 自覚的な身体的負担度 (1)	N. 疲労感 (3)
D. 職場の対人関係でのストレス (3)	O. 不安感 (3)
E. 職場環境によるストレス (1)	P. 抑うつ感 (6)
F. 仕事のコントロール度の低さ (3)	Q. 身体愁訴 (11)
G. 技能の活用度の低さ (1)	サポート因子
H. 仕事の適性度の低さ (1)	R. 家族・友人からのサポート (3)
I. 働きがいのなさ (1)	S. 同僚からのサポート (3)
	T. 上司からのサポート (3)

() 内は構成項目数

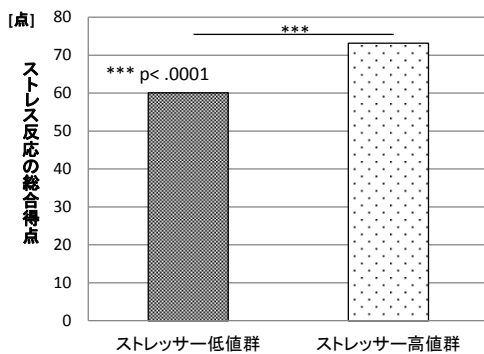


図2 ストレス反応のストレッサー高低群比較

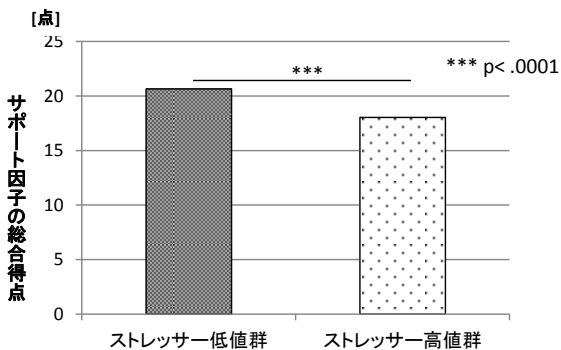


図3 サポート因子のストレッサー高低群比較

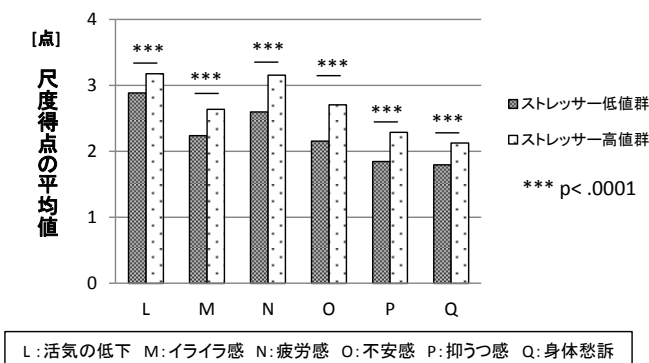


図4 ストレス反応の各尺度項目のストレッサー高低群比較

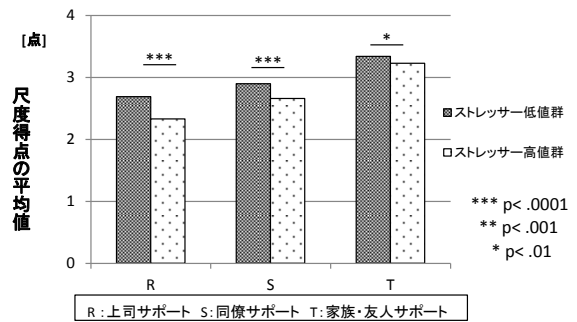


図5 サポート因子の各尺度項目のストレッサー高低群比較

4. 考察およびまとめ

結果からは、職場でのストレッサーが高くサポートが低いと、ストレス状態が昂じ、ストレス反応が高くなるというシンプルな関係性の成立が確認できた。今後、更に個々のストレッサー項目レベルで同様の分析を行い、女性看護師におけるストレッサー特異性についても詳しい評価を進めたい。

5. 参考文献

- 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課産業保健支援室. 労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル, 2015.
- 職業性ストレス簡易調査票
HP: http://www.tmu-ph.ac/topics/stress_table.php
(2018/8/26閲覧).